

## 本号の内容について

本号には、哲学会の第 60 回研究発表大会において開催されたワークショップ「ハイデガー哲学の政治性」（2021 年 10 月 30 日、東京大学、Zoom で開催）でなされた二つの報告（轟孝夫「ハイデガーのナチス加担——その学問的背景」、品川哲彦「『超政治』の政治責任」）とそれにたいするコメント、そのコメントにたいする報告者のリプライとを掲載した。

掲載を承諾していただいた哲学会、報告者を務められた轟教授、当日の司会を務め当日の報告を寄せられた梶谷真司東京大学教授、コメントを寄せられた古荘真敬東京大学教授にここで謝意を表す。

\* 哲学会 (The Society of Philosophy) は、井上圓了(1858-1919)、井上哲次郎(1856-1944)、有賀長雄(1860-1921)、三宅雄二郎(1860-1945)、棚橋一郎(1863-1942)など当時の官立東京大学に学んだ若手研究者たちによって発議され、加藤弘之(1836-1916)、西周(1829-1897)、西村茂樹(1828-1902)、外山正一(1848-1900)などの賛同を受けて、1884年に設立された日本で最も古い哲学の学会である。東京大学哲学研究室に事務局を置く。